

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470300993
法人名	有限会社 ヘルパーステーションよろこび
事業所名	グループホーム ほたる
所在地 (電話番号)	鈴鹿市池田町1335番地の7 (電話) 059-381-5977
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 12 月 12 日(金)

【情報提供票より】 (H20年11月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	18 人	常勤 4人, 非常勤 14人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(11月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1		4 名	要介護2		2 名
要介護3		3 名	要介護4		名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	81.4 歳	最低	68 歳	最高 87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木病院 滝川眼科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周辺は、田畑が多く散歩時に稲穂が垂れ柿、みかんなど季節を五感で感じる事が出来る環境のもとで支援されており、利用者の落ち着いた様子からも伺うことができる。ご家族の訪問も多く、気楽に事業所の方(管理者・職員)と話すことができる雰囲気がある。利用者一人ひとりの能力に応じて、その人らしい暮らし方を無理なく、安心して送れるような支援を実施している事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題9項目の内、7項目は改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員が話し合いのもとで、前回の改善点を重視し、今回の自己評価に取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	メンバーの参加が難しいが、今年3回開催されている。又近日中に催される地域自治防災会では、地域住民との協力が得られることになっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会も多く、その度々に管理者や担当職員と話せる雰囲気が作られていて、家族からの意見を聴きサービス改善に努力している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の途中に地域住民からの声掛けがあり、事業所の行事には周辺住民の参加を得ている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「その人らしい生き方、共に歩み共に生きる」を理念として掲げ、馴染みの関係を大切に安心して生活できるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員が理念を理解・共有し、理念にもとづいて日々のサービスを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入している。地域自治会活動への参加は難しいが、事業所での催し事には地域に知らせて招待している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員全員が評価の意義を理解し、評価の結果については、具体的な改善・向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度3回の運営推進会議が開催されている。地域関係者の出席が難しいが、近日中に開催される地域自治防災会で地域の意見や要望を聞き取る予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常日頃から市町担当者とは情報交換がなされ、困難事例・ケースなどの指導も受けている。また、月に1度、介護相談員に相談やアドバイスを受けていたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況を介護支援経過表・利用料金請求書・ほたる通信と共に毎月1回家族に知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、管理者や職員が家族と話し合う機会をつくり、運営や利用者への支援に対する意見・意向を聞き、介護実践に生かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすいようにシフトを考え、退職などに繋がらない配慮をし、異動なども利用者へのダメージに繋がらないよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	三重県グループホーム連絡協議会や市町からの研修情報に基づき、研修に参加させている。管理者はスタッフに、働きながらトレーニングすることを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に加入、勉強会や同業者との交流を通して情報をキャッチしサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族・利用者の施設見学や、利用者との面接・体験入所(1週間)で意思疎通ができたことを確認し、納得した状況で入所する方法をとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩であり、敬うことを基本に、馴れ馴れしくなって友達感覚にならないように配慮している。利用者から裁縫や料理等教わったりして共に過ごし、支え合う関係を築くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。困難な方は本人の意向を汲み取り、本人が暮らしやすいような支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に寄り添う介護をする中で、利用者・家族と話し合いながら介護計画を作成している。サービス担当者、管理者のサービス担当者会議での意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員ミーティングで、全利用者のモニタリングを行い介護計画の見直しを実施している。必要に応じて現状に即した変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と連絡を取り、家族の都合の悪い時などの通院・日用品の買い物等柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の医療機関と関係を築きながら、適切な医療が受けられる支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期・重度化については、入所当初から説明と情報提供や状況の共有を図っている。医療行為の必要性が生じた場合の受け入れ機関等の話し合いも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	やさしい声かけを心掛け利用者の誇りやプライバシーを損なう対応はしないように注意している。記録など個人情報は事務所で保管されており、取り扱いには充分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物等、その日その日にその人らしい暮らしができるよう、一人ひとりの思いや希望を大切に支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の見守りをしながら、共に準備・後かたづけをしている。利用者と職員と一緒に食事をし、会話のある食事時間を楽しむように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、10:30～15:30の間に利用者の希望に沿って入浴できるようにしている。最低でも隔日の入浴を実施し、希望すれば毎日でも入浴することが出来、入浴を楽しむ配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の能力に応じて、食事の後かたづけや園芸・手芸などで、張り合いや喜びのある支援を実践している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の状態や、その時々状況に応じて、散歩や買い物など戸外に出ることを心掛けて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解されているが、過去に利用者の一人が遠方まで出かけてしまった経験から、完全な鍵をかけないケアの実践がなされていない。	○	利用者の状況把握や見守りで、鍵をかけないケアの実践を検討し、改善されることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施している。11月27日に消防署の指導のもと、職員が利用者の代わりになっての訓練を実施している。	○	夜間想定避難訓練の実施を期待する。地域住民の協力のもと、職員と利用者が一緒に訓練を行うなどの取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に合わせた食事メニューと摂取量の把握がなされている。水分確保については、給茶設備が共有空間に設置され、水分補給状況もチェック記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く畳コーナーもあり、採光も良好で明るくて、季節の花や手芸品が飾られている。暖房や換気にも注意をし、居心地よく過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自宅で使いなれた家具や調度品が置かれ写真を飾るなど、その人にとって居心地良く過ごせるように配慮されている。		